

書窓

Shoso

No.429

2021.2

太子町立図書館 編集発行

〒671-1561

兵庫県揖保郡太子町鰯

1310 番地 7

Tel (079)277-1580

Fax(079)277-5684

子どもの本だな 87

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

海のおばけオーリー

マリー・ホール・エッツ 文・絵
石井 桃子 訳 (岩波書店)

お母さんアザラシがそばを離れているあいだに、赤ちゃんが水兵につかまり、水族館につれてこられました。オーリーと名づけられたアザラシの子は、大人にも子どもにも大人気。オーリーも見物人を見て楽しんでいましたが、そのうち、えさを食べなくなりました。お母さんや海が恋しくなったのです。飼育係は、元気をなくしていくオーリーをそばの湖にはなしてやりました。

ところが、岸を散歩している人、湖で泳いでいる人、釣り人、オーリーを見かけた人たち誰もが「おばけがでた！」と逃げ出し、町じゅうが大騒ぎになりました。

小さなアザラシが、人間のあいだでとんでもない化け物になっていく様子がユーモラスです。オーリーや人物の表情、動きを丁寧に描いた黒一色のコマ割りの絵は、長い旅の末、お母さんに再会したオーリーの喜び、安心感を伝えます。読んでもらえば4歳から楽しめます。(竹内)

時の旅人

アリソン・アトリー 作 松野 正子 訳 (岩波書店)

ペネロピーは、療養のために親戚が住む農場の屋敷で過ごすことになりました。ある時、ペネロピーがドアを開けると、そこは数百年前の屋敷でした。ペネロピーは、当主のアンソニー・バビントンや弟のフランシス、屋敷で働く人々と出会い、親しくなります。バビントン家では、囚われの女王メアリーの逃亡計画をすすめていました。女王が幽閉されている城と農場は、秘密の地下通路で通じていたのです。しかし、通路が発見されてしまい、計画は失敗します。ペネロピーは、行く末を知りつつ、アンソニーが助かるように願います。

田舎の屋敷を舞台に、ペネロピーが平穏な現代と波乱に満ちた過去を行き来しながら、歴史的な事件に巻き込まれる物語です。自然あふれる田舎の風景や、そこに住む人々の生活が緻密に描写されています。11歳くらいから。(光藤)

2月	3月	2・3月の移動図書館 (いずれも木曜日です)				
11日	11日	塚森 地域内 10:30~ 10:50	沖代 地域内 11:00~ 11:20	福地(三反長) 地域内 14:30~ 14:50	米田 公会堂 15:00~15:20	竹広南 公民館 15:30~15:50
18日	18日			原池団地 公民館 15:00~ 15:20	山田 掲示板前 15:30~15:50	原 太田東地区農村 交流センター 16:00~16:30
25日	25日	広坂 公民館 10:30~ 10:50	上太田 公民館 11:00~ 11:20		太子 ニュータウン 公民館 15:30~15:50	吉福 公民館 16:00~16:30

<お知らせ>

絵本の時間・おはなしの時間
2月の「絵本の時間」「おはなしの時間」の日程をお知らせします。(一部、規模を縮小して行います。)

■「絵本の時間」
・2月4、11、18、25日の木曜日
・11:00~11:30

■「おはなしの時間」
・2月6、13、20、27日の土曜日
・11:00~11:30
・対象:4歳~中学3年生

【注意】
①人数が多い場合は、**人数を制限**させていただきます。
②おはなしの部屋に入る時は、**マスクの着用**をお願いします。

『 サガレン 樺太/サハリン 境界を旅する 』 梯 久美子 著

KADOKAWA 285頁 2020年4月刊 1,700円 (請求記号) 292.9

本書は、鉄道旅や廃線探索を愛する著者が、以前から訪れたかったサハリンで鉄道に乗り、島に残る日本の遺構を巡り、かつてここを訪れた文豪たちの足跡を辿る紀行作品である。

サハリン(樺太)の旧名サガレン。ここには昔、日本の国境線があった。複雑な歴史が地層のように積み重なり、何度も国境線が引き直されたこの島を南北に縦断する鉄道がある。樺太時代に日本が整備した遺構の一つで、国境以南を日本が、北をソ連が敷設した。鉄道はユジノサハリンスク(豊原)からノグリキまでの613kmを、寝台特急で約12時間かけて島を縦断する。

1度目の旅は、寝台特急に乗り、島北部に走っていた軽便鉄道のオハ鉄道跡地を訪れた。列車の中では、林芙美子の「樺太への旅」を読み、83年前の芙美子と共に旅をした。

2度目の旅は、1923(大正12)年の夏に樺太を旅した宮沢賢治の行程を辿った。賢治が鉄道ファンだったことは有名で、樺太での鉄道旅は『銀河鉄道の夜』のモデルになったと言われている。道中で書かれた詩は、樺太に着くまでは陰鬱で深い悲しみと怒りに満ちているが、樺太上陸後は穏やかに明るく、そして不思議なほど澄んだ空気のようになっていく。著者はこれらの詩から、最愛の妹の死を乗り越えていく賢治の心情の変化を読み解いていく。また、『銀河鉄道の夜』には、旅先で見た風景や人々の様子、そして詩の描写の中に重なる部分がいくつも見られ、読み比べながら著者の解説を読むと、銀河鉄道のモデルはサハリン鉄道だと言われるのも頷ける。

島に残る日本時代の石油タンクや王子製紙工場。日露間の争いの歴史やアイヌやニブツなどの先住民族の歴史。宮沢賢治や林芙美子と同じくこの地を訪れた北原白秋、チェーホフ、村上春樹などの文豪たち…。著者と編集者の笑いに誘われる旅の記録と共に、鉄道・歴史・文学が織り込まれ、知らなかったサガレンの姿が描かれている。文豪たちの作品も多く紹介され興味は尽きない。とりあえず『銀河鉄道の夜』を読み直そうと手に取った。書名を『サガレン』としたのは、宮沢賢治がこの地をそう読んだことからだそう。(池之上)

2月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28						

3月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			



*カレンダーの×印は休館日

- ・2/12、2/24、3/22は祝日の振替
- ・2/26、3/31は館内整理日

*開館時間は10:00~18:00

金曜日は20:00まで開館

地下水

ここ数日、児童室の詩・ことばの棚がガラガラだ。小学生が友だちとときたり、お母さん、お父さんとやってきて詩の本を借りていく。学校の宿題で、テーマはあったりなかったりするようだ。先日やってきたふたり組み、聞くと「うみの生き物の詩」でさがしているという。谷川俊太郎の『ことばあそびうた』から「いるか いるか いないか いるか」と読むと顔がほころんでいく。海じゃないけど、こんなのもあるよと「かっぱ かっぱらった かっぱらった かっぱらった」とつづけると笑いだして「これにする!」と手にとった。図書館の研修会でよく詩の暗唱をしてくださるSさんやHさん。耳で聞くと詩の良さにあらためて出会う。そして言葉ひとつひとつのイメージの深さに驚く。詩の作者と暗唱してくれる人の想像力をもらうからなのだろう。想像力はわたしたち人間のみが持つ力だという。子どもたちにも、豊かな想像力を育む言葉に出会ってほしい。そう思って、日々、その糧になる本を手渡している。(西村)